

長野県

定数：6名

立候補者数：5名



氏名 佐藤 博之

都道府県士会 長野県

年齢 56

勤務先名称 飯田市立病院介護老人保健施設



氏名 百瀬 公人

都道府県士会 長野県

年齢 59

勤務先名称 信州大学医学部保健学科

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

【士会役員歴】平成9～10年度 長野県理学療法士会 生涯学習部長
 平成11～16年度 同会事務局長
 平成17～20年度 (社)長野県理学療法士会理事、社会局長
 平成21年～23年度 同会理事、副会長、ブロック局長
 平成24年度～28年度 (一社)長野県理学療法士会理事、副会長
 平成29年6月～現在 (一社)長野県理学療法士会理事、会長
 【協会役員歴】平成21年～現在 (公社)日本理学療法士協会代議員
 【立候補趣旨】長野県理学療法士会の会員数は2,200名を超え、比較的若い世代の理学療法士が急増してまいりました。今後もさらに理学療法士の数が増加することが予想されています。その中で、理学療法士が活躍できる場(職場)の確保に向け、職域拡大や新たな職域の開拓が必要です。地域包括ケアシステムの構築に向け、理学療法士の活躍の場が期待されていますが、まだまだ行政や国民に対するアピールや実践は十分とはいえない状況です。誰もが安心して地域で快適に暮らすことができるよう、我々理学療法士の活躍の場はもっとあると思われまます。
 行政に勤務する理学療法士ばかりでなく、勤務数の多い医療関係をはじめ、福祉関係の理学療法士が地域包括ケアシステムに積極的に参画できるような、システムづくりと、期待に副えるよう技術、能力の担保も重要と思えます。
 新型コロナウイルスも、昨年5月には5類相当となり社会が大きく動き出しました。今年元旦に発生した能登半島地震では多くの犠牲者が出て、避難されている方もまだまだ大勢いらっしゃいます。様々な困難に直面していますが、協会と連携し切れ目ない、会員のニーズに即した士会活動が行えるようにしていきたいと思えます。
 私は、長野県内の各ブロックでの活動をさらに充実させる中で、会員の皆さんの率直な声をお聞きし、協会へのパイプ役として皆様の声を反映させていきたいと思えます。また、理学療法士が将来に希望が持て、安心と生きがいを感じられるように全力でがんばっていきたくと思えます。皆様方のご支援を何卒よろしくお願いいたします。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

平成13年度～平成15年度 (社)山形県理学療法士会 理事
 平成20年度～平成21年度 (社)長野県理学療法士会 学術局部員
 平成22年度～令和5年度 (社)長野県理学療法士会 理事
 平成22年度～令和5年度 (社)長野県理学療法士会 学術局長
 平成27年度～平成29年度 第36回関東甲信越ブロック理学療法士学会準備委員長
 平成27年度～令和5年度 (公社)日本理学療法士会代議員
 養成校から就職後の新人時代にわたるシームレスな教育は重要である。新しい指定規則が令和2年度より施行され、診療参加型臨床実習が推奨された。当士会では平成29年度から診療参加型臨床実習を推進している。士会では、学生教育の改善を積極的に取り組むべき課題と考え、臨床実習施設認定制度や、診療参加型臨床実習の手法であるOJT、チェックリスト・ルーブリックなどの評価のひな型も作成した。学生実習を改善することは新人教育の改善に強く結びつくと考える。
 根拠に基づいた治療を行うことは重要で、本会でもガイドラインを作成して積極的に取り組んでいる。本会が参加していた日本リハビリテーション・データベース協議会では脳卒中等の平成27年度データ報告を行っている。医療が日々進歩している状況において平均的治療結果を各施設の現在の平均結果と比較し治療を改善することに役立てるには継続性が必要である。そこで、士会では大腿骨頸部骨折のデータベースプロジェクトを令和3年度から開始した。昨年末には2000名を超えるデータが収取でき、士会へのフィードバックも開始した。他の疾患でも来年度開始予定である。
 このような、学生実習教育と新人教育や、データベースの整備は本会でも積極的に取り組まなければならない、本会の主要な業務と考えている。本会は会員の急速な増加のもと発展してきたが、2025年以降の高齢者の減少を来年に控えた現在、理学療法士の能力を高めることが急務である。そのために、本会が組織として取り組まなければならない、私は士会での経験をもとに代議員として取り組む決意である。



氏名 小林 武雅

都道府県士会 長野県

年齢 41

勤務先名称 長野松代総合病院



氏名 大見 朋哲

都道府県士会 長野県

年齢 46

勤務先名称 相澤病院

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

士会役員歴：長野県理学療法士会北信ブロック局局長
働き方改革に代表されるように、我々の置かれている環境は近年目まぐるしく変化しています。時代が変化していく中でPTが求められているものへの対応や、そこで働く個人の処遇改善などを同時に考えていかねばなりません。私は昔のやり方が全て間違っているとは思っていません。先人から学ぶこともたくさんあります。それを今の時代に合わせたやり方で引き継いでいき、新しい考えなどを取り入れていきたいと考えています。微力ではありますが、少しでも力になればと思い立候補を決意いたしました。

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

私は2010年度より長野県理学療法士会にて常任理事として、2023年度より副会長を務めさせていただいております。
この十数年の間に、理学療法士を取り巻く環境は大きく変わり、協会および県士会の事業規模および活動の範囲も拡大しております。
一方で、日本理学療法士協会に入会しない理学療法士や、退会する会員が増えているのも事実です。
協会の活動をわかりやすく県士会会員に伝え、県士会員の意見などを協会に伝えられるパイプ役として活動したいと考え、この度日本理学療法士協会代議員に立候補させていただきます。
どうぞ宜しくお願いいたします。



氏名 林 有理

都道府県士会 長野県

年齢 52

勤務先名称 佐久総合病院 佐久医療センター

協会・士会役員歴／立候補の趣旨

2015年～2018年 (一社)長野県理学療法士会 社会局 こども福祉部員
2019年～2020年 (一社)長野県理学療法士会 理事
2020年～現在 公益財団法人日本理学療法士協会 代議員
2021年～現在 (一社)長野県理学療法士会 副会長

ご存じの通り、日本の人口比率は超高齢化がすすみ2025年問題に直面します。それを踏まえて、厚生労働省より、「保険医療2035」が提言されています。ビジョンの1つとして、健康増進や予防、診断、治療、疾病管理、介護、終末期（人生の最終段階）まで切れ目なく一貫性を持った保健医療が提供されるとあります。ますます、PTの果たす役割は増加していくと思われませんが、様々な職種が関わる中では、職域の問題、さらに国民にもとめられるPTとして、質の維持等の課題もあると思います。PTの職域の拡大、質の向上について、協会・士会にて一端を担っていますが、一方で会員の協会離れが進んでいます。今後協会、士会の役割についての啓蒙活動とより細やかな情報収集と対策を協会と都道府県士会が一つになり解決していく必要があると思います。引き続き代議員として、「顔の見える関係」「各士会との情報の共有」を構築していく役割として、微力ではありますが尽力していければと考えています。